

森りょうじ リポート。(101号)

～ 森が動く、皆さんと一緒に動く。～

■令和2年度第2回定例会ダイジェスト

今定例会(6/4-6/12)は議案46件を審議しました。主に新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」)への対応に関する議案(一律10万円の特別定額給付金や地方創生臨時交付金を活用した市独自の対策など)が中心でした(感染症予防対策から議会日程を短縮して開催)。

第1波を乗り切ったとは言え、第2・第3波の可能性が指摘される中で「天与」とも言うべきこの期間にどのような対策をとるかで、今後のまちづくりは大きく変わってきてそうです。今、私たちは“コロナ時代の地域像”を新たに描く責任が求められていると思います。

■議会が動く。(新型コロナ対策条例を制定)

地域像を描く最初の一步として、市議会では8年ぶりの議員立法(条例制定)を行いました。条文作成や法務面の調整など私も中心となって関わり、条例には自らの思いを盛り込むことが出来ました。(裏面特集)



森りょうじチャンネル「RyouTube」でも報告!

■ご案内 ～森から皆さまへ～

- ① 駅活動を再開しました! 感染予防のためマスクを着用しながらの活動です。ご理解をお願い致します。
- ② 令和2年度第3回定例会の日程案は9/4-10/6です。
- ③ 今春から配信中のYouTube「森りょうじチャンネル」をご登録いただきまして、ありがとうございます!

○1976年6月12日流山生まれ(44歳) ○家族:妻

※サラリーマン家庭(父はNTTに勤務)で育つ

流山市立新川小、流山市立北部中卒業

日本大学第一高校、武蔵大学経済学部卒業

○2000年4月 大成建設株式会社に入社(管理部ほか)

○2003年4月 流山市議会議員に初当選(2,692票)

○2011年4月 流山市議会議員二期目当選(4,508票)

○2015年4月 流山市議会議員三期目当選(5,830票)

○2019年4月 流山市議会議員四期目当選(8,961票)

※政治理念はケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるか」。

森りょうじ

森が動く。



流山市議会議員

討議資料

新型コロナの影響で日常生活や仕事的环境が一変した方も多いと思います。言うに及ばず私もその一人です。とくにICTの積極的な利活用の他に、台所に立つ時間が増えました。最近では手際も良くなり、メニューも増えてきました。コロナ時代、新しいことに挑戦してみるのも一つだと思います!

森が動く。①

【コロナ社会と向き合う】

メディアでは“With コロナ・After コロナ”など様々な言葉が飛び交っています。背景には新型コロナとは長く付き合う可能性が高いことからだと思います。では流山市はどのような対応をしていくべきなのか。現時点で皆さまから寄せられた声や課題を整理してみました。

医療・検査体制の整備について

新型コロナ対応の要所である保健所ですが現在の当市規模では設置が不可能です。そのため医療・検査体制に関しては県の指示に従うことになるため感染情報の把握や医療体制の整備などで課題を残しています。また通院控への影響で病院の経営環境も厳しいようです。市内医療体制の維持も重要になってきそうです。

教育・子育て支援について

新型コロナの影響を最も受けたのは子ども達です。とくに小中学生は3ヶ月間休校となったことで学力格差などの課題が指摘されています。そのため『学びの機会の確保』が最優先課題です。対策の一つとして、学習環境のICT強化（一人1台の端末配備）を進めています。



公園は感染予防策を呼びかけて開放

一方、子どもを預かる保育園や学童クラブは受入れ体制や感染リスクの回避策について再度確認しておく必要があります。

中小企業・零細企業への支援について

中小企業や個人事業主（飲食店など）が多い当市は、新型コロナの影響が深刻です。地域経済・雇用を支える基盤でもあり、積極的な支援が必要です。現在市独自の融資制度や家賃補助を実施していますが支援拡充の声もあります。

その他の課題について

- ・自粛に伴う自治会やコミュニティ活動の停滞
- ・コロナ禍で大規模災害が発生した場合の対策

WebSite「森りょうじ」を検索！
また Twitter・Facebook も更新中！

※ポスティングスタッフ募集中！この会報は森本人とボランティア皆様のご協力により配布されています。（業者使用一切なし）

森が動く。②

【有事の際に、頼れる議会とは？】

過去の経験を生かす

「コロナ禍で何をすべきか？」は、議会内でも重要なテーマでした。新型コロナ問題に市内一丸となって対応する行政に対し、議会が足を引っ張るわけにはいきません。一方で、市民の皆さまから寄せられる不安や問い合わせは、日を追うごとに増えていきます。それは9年前の東日本大震災の際の放射能問題とも類似するものでした。そこでまずは議会として、大きな方針を立てることが必要でした。

政策を進めるために必要なこと

議会は世代・地域・政策が違う議員の集合体です。その中で一つの政策（条例）を作り上げていくことは、外から見るとも困難を伴います。ただ今回は『安全安心な地域社会を早く取り戻す』と言う目標が同じであったことが後押しになりました。議会は議論を大切にしますが、有事の際はスピード感も大切です。そのため今回は約1カ月で纏めることが出来ました。

条例のポイント

条例は全7条の構成です。その中で、私が注力したのは2点。一つは「国・県・議会・市民等・医療機関の緊密な連携による対策」、もう一つは「議会の責務」です。コロナ問題は組織単体の努力だけでは乗り越えられません。縦割りなど組織の壁を乗り越えて対応することが必要です。その際、私たち議会も中心となって対策の実行性などをチェックしていく責任があり、その点を条項に位置付けました。

今後の見通し

条例制定は一つの通過点です。今後は条例に基づく対応が行政・議会・市民の方に求められます。条例の目的が達成され、コロナ問題が早期に終息するよう皆様と共に行動していきたいと思ひます。



友人医師・議員と公開ウェブ討論会を開催

【事務所】流山市中野久木 559-2
TEL & FAX: 7155-3236